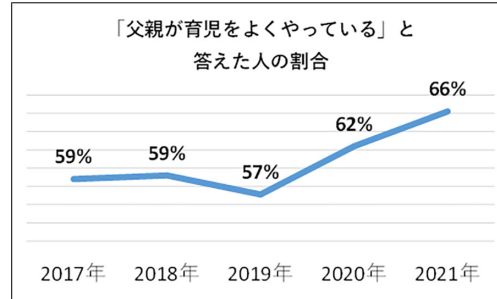


▶ 父母の育児負担が大きくなっている

核家族の父親・母親が働きながら家事も育児も担うことで、1人あたりの育児負担は大きくなっています。

産後のホルモンバランスや生活の大きな変化などによって、20～40%の母親に産後うつ傾向が生じ、15～20%の父親にも同様のリスクがあるといわれています。

雄武町では、乳幼児健診時のアンケートで「父親が育児をよくやっている」と答える人が増えています。



▶ あなたはあなたのままで良い その子もその子のままで良い

これはベテラン助産師さんがいつも教えてくれる「子育てがうまくいく考え方のコツ」です。子育て中の親が「つらい」と思うのは、自分が思い描く理想の子育てとのギャップを感じているから。忙しい毎日の中で、やらなくてはならないことのために時間がなくなって、やりたいことができないから。子どもの個性は親がコントロールできるものではありません。子育ては最高に難しくて価値のある仕事。そんな仕事に向き合っている自分と、ありのままのわが子に誇りをもってハナマルをあげましょう。

▶ 地域には、あなたを支えたい「サポーター」がたくさんいます

『ぷちさぼ』には、保健師・管理栄養士・助産師・心理士・歯科衛生士などの専門職があり、各関係機関と連携しながら子育てをサポートする体制があります。お気軽にご連絡ください。

問 母子健康包括支援センター『ぷちさぼ』（健康推進課保健係）
☎ 84-2023

Kids わんぱくキッズ（子育て支援センター）



Everyone's infirmery

みんなの保健室



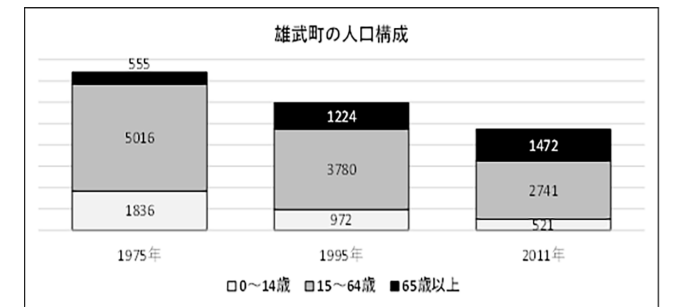
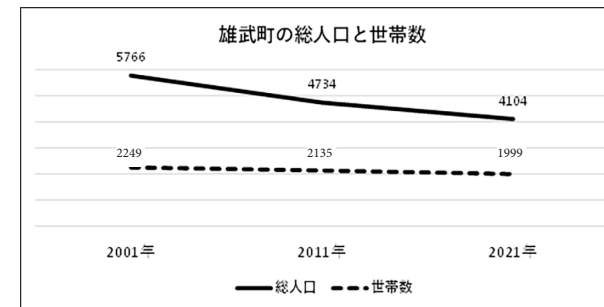
子育てのいろいろ

子育ては、親の個性・子の個性・その組み合わせや、親子を取り巻く環境、時代などによって千差万別。同じ家族でもその時々状況によって子育てのあり方が変化し、100の家族があれば100通り以上の子育てがあります。今あなたがしている子育ては、よその家とも、自分の親とも違うたった一つのものなのです。

社会とともに変化する子育て

▶ 昔も今も、子育てにはいろいろな大変さがある

全国同様、雄武町でも少子高齢化や核家族化が進み、子育てを取り巻く環境は時代とともに大きく変化しています。昔は便利な家電や気軽に情報収集できるインターネットはありませんでしたが、世帯人数が多く、子育ての「手」や「目」が今よりも充実していました。今は生活が豊かになった一方で共働きの家庭が増え、核家族化が進んだことで子育てのイメージがないまま親になることも多くなりました。



昔		今
平均初婚年齢は25歳前後。(1950年全国)	婚姻	平均初婚年齢は30歳前後。(2018年全国)
多世代で構成される世帯が多く、きょうだいは3～4人いる家庭が多かった。	世帯	独居や夫婦のみ・親子のみの世帯が多く、きょうだいは1～2人の家庭が多い。
主に男性が収入を得ていることが多く、女性は家事や育児を担って生活していた。	働き方	男女共働きの家庭が大半を占め、保育所や幼稚園を利用しながら生活している。
身近な先輩・父からの情報が日常的に得られた一方で、育児本など、情報を得ようとしないと得られない環境だった。	情報収集	インターネットやSNSで手軽に入手できる情報があふれている。悩んだときの相談先がSNSなどの親も少なくない。